

中一 国語科通信

第7号
平成30年1月24日
国語科1年担当
日高・平川・猿間



自転車の細き轍のつきにけり
淡雪残るアスファルトの上

百人一首大会

昨年末の補習中、百人一首大会を実施しました。一学期から、週一回二首ずつ覚えて四十首になったのを記念しての実施でした。夏期補習中に実施した時よりも、札を取るスピードや皆さんの興味がアップしていたように思います。



一年間で百首はどうやら難しいようですが、今後も引き続き、覚えていきます。今はまだ意味を考えて思い出そうとしている人も多いですが、それでは覚えたことになりません。とにかくひたすら暗唱

し、体に染み込ませてください。六十首、八十首、大会を楽しみます。

一組のA君の作品は、違つ切り口で書いたりライトも大変興味深かったので、特別に両方とも掲載します。

〈白〉
一組 A君
「白」という色は、実に不思議である。無色ではないが、目立たない場合と目立つ場合があり、他の色と混じると、淡い色となる。だが、周りの色に溶け込み、時には主役となる「白」が持つ臨機応変さを私は見習いたい。

◇「白」という色の持つ不思議さをいろいろな角度から考察することで、説得力が増しています。そしてその特性を「臨機応変」としてるところも面白い。

「悪も勝つ!!!」
一組 A君
「白の反対は黒」と多くの人が思うだろう。そもそも、白は「正義」、黒は「悪」というイメージがあるが、絵具を使い、混ぜると黒が優勢。つまり、自分より実力が上の人でも、やり方次第で結果を変えることもできる。

◇「白」と「黒」という色の話からまさかの展開! 「私」を使わずに書くことで、作文からステップアップして、「小論文」に一步近づいています。

〈おみくじ〉
二組 Nさん

「高校生」
私は一月一日に、初詣に行つて、おみくじをひいたが、結果は中吉で学問はよし、と満足できる結果だった。ふと横を見ると、恋みくじで凶を出し、半泣き状態の高校生がいた。なんだかとても可愛く、新年早々癒された。

◇おみくじを巡る悲喜交々(ひきこも)が、百字にぎゅっと詰まっています。「」の位置を工夫すると、より良いですね。

〈成人〉
三組 Tさん

「姉の振り袖姿」
私には六歳離れている姉がいて、今年の六月には二十歳になり成人式を迎える。先日、姉が成人式で着る振り袖を見に私もついて行った。大好きな姉の振り袖姿は、とても似合っていて成人式を迎えるのが楽しみになった。

◇最後の「楽しみに」しているのが、「Tさんの」成人式なのか、「お姉さんの」なのか、解釈を選べるのが面白い。家族愛が伝わってくる文章でした。

コラムマラソン 第七回
「思い」を「遣る」

狭間千穂

皆さんがまだ習っていない古文の単語に「遣る」という語があります。これは、「近い所から遠い所へ動作を及ぼす」という意味で、たとえば「文を遣る」といえば「私からあの人へ手紙を送る」という意味だし、「人を遣る」といえば、自分の所から遠く離れている場所へ使者を送ることを意味します(現代語でも「派遣」というのはそういう意味ですね)。

とすると、「思いやり」というのは、「思い」を「遣る」ことになります。自分から誰かへ、「思い」を「送る」――。たとえばトイレに入った時。トイレットペーパーが自分で最後になったら、次の人のことを考えてペーパーを補充しておく。たとえば廊下に水がこぼれていた時。誰が見ていなくても、ぞうきんを持ってきて拭いておく。結局、「思いやり」とは、「想像力」だと思ふのです。次に入った人が、ペーパーがないのに気づかず用を足してしまつたら――。急ぎ足で歩いている人が、濡れた廊下で足を滑らせたら――。

私は若い頃から、「想像力は世界を救う」と信じて生きてきました。つまりはそれが「思いやり」だったのだ、と気づいたのはだいぶ後になってからでした。

世界はいろいろとやっかいな局面を迎えています。すべての人がこの想像力をもって行動すれば、平和で安全で幸せな世界が実現すると思ふのです。

まずは、あなたから始めてみてください。「思い」を「遣る」ことができるのは、いつでも「自分から」しかありませんから。